

インド・タミルナドゥ州における ダリット青年殺害事件に抗議の声を！ インド政府当局へのアピールをお願いします

反差別国際運動（IMADR）理事のブルナド・ファティマ・ナティサンさんが代表を務め、IMADR がともに活動しているインドの「タミルナドゥ・ダリット女性運動（TNDWM）」から、ダリット青年が殺害された事件について緊急アピールの要請が寄せられました。IMADRは、繰り返されるダリットの人びとへの暴力に対し世界各地から抗議の声を届けインドの関係当局が一日も早くこの問題に真摯に取り組むよう、また、現地で困難に立ち向かう活動家をサポートするために、多くの方々に行動を呼びかけます。（IMADR 事務局）

事件の概要

去る7月25日夜、インド・タミルナドゥ州のアラコナムにあるムトゥール村で、5人のダリット青年がバスで帰宅途中にひどい暴行を加えられ重傷を負いました。ダリットではない40人ほどの青年らが彼らの居住地に入ってきたバスを止め、ダリット青年たちを引きずり降ろし凶器でひどい暴行を加えたのです。彼らは石や棒の他に凶器で体や目を打たれ、背中に噛みつかれ、衣服を剥がされその場で燃やされました。所持していたお金や携帯電話なども盗まれました。そのうちの1人アシルヴァタムさん（23）は、8月12日に息を引き取りました。

事件が起こったムトゥール村内には、ダリットの居住地区（504世帯）とヴァニヤールという他カーストの居住地区（3000人）が隣接しています。ダリットの人びとは、自分たちの地区には井戸がないのでヴァニヤールの居住地区から水を汲まなければなりません。そういう環境のなか、1人のダリット青年が隣の地区で水を汲んでいたところ、その地区の男が嫌がらせをし騒動になりました。事件はその日の夜に起き、騒動とはまったく無関係のダリット青年が「ダリットである」という理由だけで暴行の標的になったのです。1995年にも類似の事件が起き、ダリット側はヴァニヤール地区の加害者を告訴しています。そのことから、TNDWM

は今回の事件をヴァニヤールによるダリットへの「復讐」と捉えています。

法律の適用

事件を受けて警察は犯人を逮捕しましたが、まだインド刑法における殺人/殺人未遂事件として起訴していません。また、事件に対してダリットや先住民族に対する残虐行為防止法（1989年）も適用されましたが、それはTNDWMが地元警察と長い論争をした結果ようやくなされたのでした。これまでも、ダリットが被害者で他カーストが加害者である事件の多くにおいて、警察がまともな捜査を行なわなかったり、加害者が不起訴になったり、司法によって加害者に有利な判決が出されたりしていることから、今回の事件に対しても正義がなされないことが懸念されます。

インド当局に要請すること

タミルナドゥ・ダリット女性運動は、事件を強く非難するとともに、以下のことを求める要請行動を展開しています。

- ・加害者に対し迅速かつ的確な法的措置をとり、インド刑法における殺人/殺人未遂事件として起訴すること。
- ・残虐行為防止法にもとづき、犠牲者とその家族への補償を行なうこと。
- ・緊張状態にあるムトゥール村のダ

リット住民を十分に保護すること。

- ・ムトゥール村のダリットの基本的な生活設備を整えるため、ダリット居住区独自の議会を設置すること。

手紙を送って 抗議の声を届けてください！

IMADRが作成したインド関係当局宛の要請書にご署名頂き、電子メール、ファックス、または郵送で送ることでアピール活動に参加できます。ご関心のある方は、IMADR事務局までお問い合わせください。要請書と送付方法をお送りします。ホームページでもご覧頂けます。

URL: <http://www.imadr.org/japan>

ダリットのおかれている 状況（背景）

インドに1億6000万人いるといわれているダリット（「壊されし人びと」の意）は「不可触」の穢れたものとして、公の場であからさまな区別をされたり、居住地が隔離されたりしている。

結果、教育へのアクセスを奪われ、劣悪な生活環境を永続的に強いられる。抑圧に抗おうと立ち上がると、警察や上位カーストによる殺害・暴力・レイプを含む「制裁」を受ける。こうした「不可触性」はインド憲法でも廃止がうたわれ、ダリット保護法として市民権保護法や残虐行為防止法なども制定されているが、インドの司法運営は実質的には上位カーストに支配されているため、機能していない。